

# 平成28年度就職率向上（大学院進学率を含む）のための学部学生による学会発表の実施報告

田中 康一郎  
Koichiro TANAKA

九州産業大学 理工学部 情報科学科  
Department of Information Science, Kyushu Sangyo University

## 1. はじめに

平成27年度より、情報科学部では就職率（大学院進学率を含む）の向上を目的に、学部学生を対象として、学会発表に必要な経費である学会参加費や旅費の支援を行っている。理工系学生の就職活動が疎かになる要因の一つに、就職希望先へのアピール・ポイントがないことが挙げられる。そこで学生の本分である研究活動を積極的に行わせ、さらに大学外で開催されている学会等でその研究成果を報告させることによって、自己アピールできることが増え、その結果、就職・進学率が向上することを期待している。本稿では本年度の実施結果について報告する。

## 2. 学生の募集方法

本年度は、以下のような条件で募集を行った。まず年度初めに、教員を介して、学生を募集した。その際、学会開催時期については、年度内であれば良いこととした。また一研究室からの参加人数も制限を設けないこととした。なお学会開催場所は、原則九州地域とした。ただし前年度参加者の多かった情報科学技術フォーラム（FIT）については、その限りではないこととした。その結果、6研究室から18名の希望者が集まった。

## 3. 実施結果

実際に学会発表を行った学生数は、参加者18名に対して11名であった。具体的には、9月に富山大学で開催されたFITでは2名[伊藤16, 鶴田16]が講演し、同じく9月に宮崎大学で開催された電気・情報関係学会九州支部大会（連合大会）と電子情報通信学会九州支部学生会講演会では、それぞれ2名[柴田16, 霍田16]と5名[河村16, 長澤16, 三角16, 福永16, 諸熊16]が発表した。また翌年3月に大分大学で開催された情報処理学会火の国情報シンポジウムでは、2名[上河17, 早川17]が卒業研究の研究成果を報告した。

卒業後の進路については、2名が九州産業大学大学院へ進学し、15名が企業等へ就職することができた。

## 4. まとめ

本稿では、就職率向上を目指した事業の実施結果を報告した。前年度は、本事業に8名が参加し、1名が大学院へ進学、6名が就職している。本年度はその結果よりも参加数が増えている。実際、多くの学生が口頭発表を行い就職・進学できたことから、本事業は就職率向上に貢献できていると考えている。平成29年度も本事業は継続している。

### ◇ 参考文献 ◇

- [伊藤16] 伊藤紗慧, 飯干杏美, 内野颯也, 田中康一郎. スマートハウス構築のための感情認識ロボットによる自律型掃除機の制御. 第15回情報科学技術フォーラム（FIT2016）論文集, pp. 243 – 244, September 2016.
- [河村16] 河村将, 前田洋征, 安武芳紘. 計算機アーキテクチャを学習するためのAndroidアプリケーションの開発. 第24回電子情報通信学会九州支部学生会講演会論文集, p. D6, September 2016.
- [三角16] 三角菜月, 田中康一郎. 女子学生支援室KSUGLのための活性化支援システムの改良. 第24回電子情報通信学会九州支部学生会講演会論文集, p. B25, September 2016.
- [柴田16] 柴田亮景, 内林俊洋, アブドウハンペーナディ. ベストフィットなIaaSクラウドサービス検索システムの提案と高速化の確認. 平成28年度電気・情報関係学会九州支部連合大会（第69回連合大会）講演論文集, p. 06 2A05, September 2016.
- [諸熊16] 諸熊亜季, 田中康一郎. 児童向けイベント実施に向けた赤村観光アプリの改良. 第24回電子情報通信学会九州支部学生会講演会論文集, p. B24, September 2016.
- [上河17] 上河竣哉, 大坪竜誠, 成凱. 時間帯や重要人物の都合を考慮した空き時間検索システムの開発. 情報処理学会火の国情報シンポジウム2017論文集, pp. A2-3 (5 pages), March 2017.
- [早川17] 早川諒, 古井陽之助, 神屋郁子, 下川俊彦. “講義における演習状況把握システムの開発”. 情報処理学会火の国情報シンポジウム2017論文集, pp. C5-3 (8 pages), March 2017.
- [長澤16] 長澤優希, 田中康一郎. スマートロック制御機能を備えた学部用スマートフォンアプリの試作. 第24回電子情報通信学会九州支部学生会講演会論文集, p. B23, September 2016.
- [鶴田16] 鶴田昌也, 末吉智奈佐, 仲隆. 細胞内シグナル伝達系の制御ネットワークによる定式化と反応次数が双安定性に及ぼす影響の解析. 第15回情報科学技術フォーラム（FIT2016）論文集, pp. 277 – 278, September 2016.
- [福永16] 福永隆之介, 末吉智奈佐, 仲隆. 細胞内シグナル伝達系の反応機構の近似が双安定性に及ぼす影響の網羅的解析. 第24回電子情報通信学会九州支部学生会講演会論文集, p. A7, September 2016.
- [霍田16] 霍田桃子, 前田洋征, 安武芳紘. 教育用計算機KERNELシステムのためのFPGAボードと連携し動作するAndroidアプリケーションの実現. 平成28年度電気・情報関係学会九州支部連合大会（第69回連合大会）講演論文集, p. 11 1A07, September 2016.